

表紙の図について

「新ビジュアライゼーション・システムの紹介」

平成16年度のシステム更新に伴い、基盤センター1F端末室に設置されている画像処理システムも新しくなりました。新画像処理システムでは、これまで行っていたサービスに加え、立体視、大画面を使った可視化、複数のディスプレイを使った可視化、複数のCPUを使った大規模データの並列可視化、ウォークスルーアニメーション、データ解析等を行うことができます。システム構成としては、UNIXワークステーション(alpha1, alpha2)とWindows PCワークステーション(beta1, beta2, gamma1)から成ります。

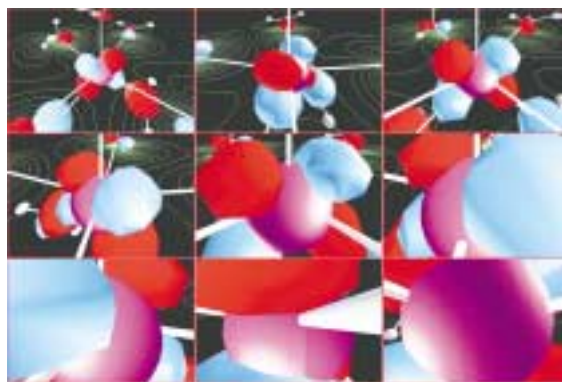
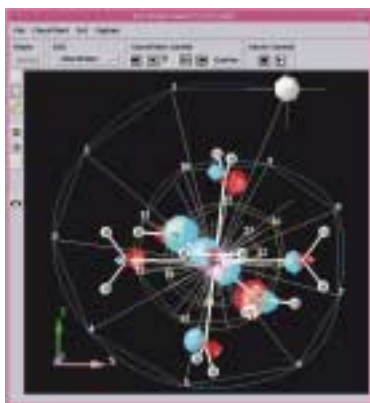
表紙の図は、alpha2を使った可視化例です。4つの24.1インチの液晶ディスプレイを連結して、3840×2400ピクセルの高解像度で作業を行うことができます。このワークステーションは、XサーバのXinerama機能とSUNのグラフィックス・アダプタのDoublewide機能を使用して高解像度のマルチディスプレイ環境を構築しています。利用者は、アプリケーションに手を加えずにデスクトップを複数のディスプレイに分割して作業することができます。また、必要があれば、アプリケーションサーバに接続してさまざまなソフトウェアを利用することもできます。

右図は、携帯可能なバーチャルリアリティシステムのgamma1の機器構成を示します。このシステムは、AVSを使って作成したコンテンツを、2台のDLPプロジェクターを使って80インチの大スクリーンに投影し、円偏向メガネを使って多人数で立体視することができます。プレゼンテーションを行うセミナー会場への貸し出しも行っています。

下図は、AVSのウォークスルーアニメーション・ツールを使って、Mnの分子軌道の立体構造を、電子の視点からあらわした図です。左図は、軌跡を定義するウィンドウの表示例です。右図は、左図で定義した軌跡にしたがってアニメーション表示したものです。興味のある方は、以下のURLをご覧ください。

<http://sora.cc.nagoya-u.ac.jp/visplus/visplusG.html>

<http://www.nagano.fujitsu.com/services/avs/solution/PresenService/>



(名古屋大学情報連携基盤センター：高橋一郎)